



証券コード：4299

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
定時株主総会基準日	毎年3月31日
剰余金の配当の基準日	毎年3月31日 (中間配当を行う場合は9月30日)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 (公告掲載URL (http://www.himacs.jp) ただし、事故その他のやむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載して行う。)
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
お問合せ先	東京都江東区東砂七丁目10番11号 (〒137-8081) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711 (通話料無料)

Web Information ホームページのご案内

当社のホームページでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報について、積極的に情報開示を行っております。当社をよりご理解いただくためにも、ぜひアクセスしてください。



スマートフォン及びタブレット端末でも見やすくなりました。



www.himacs.jp

証券コード：4299



株式会社 ハイマックス



東証一部上場

第41期 決算のご報告

平成28年4月1日 - 平成29年3月31日

Business Report

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

右記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com> アクセスコード **4299**

いいかぶ

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



*本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問合せ「e-株主リサーチ事務局」 TEL: 03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL: info@e-kabunushi.com



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



(注) QMS認証は、一括請負契約に係わるコンピュータ・ソフトウェアの設計・開発、メンテナンスを範囲としております。
ISMS認証は、みなとみらい事業所に対し、コンピュータ・ソフトウェアの設計・開発、メンテナンスを範囲としております。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社グループ第41期(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)の業績及び中長期経営計画の進捗等についてご報告申し上げます。

代表取締役社長 中島 太



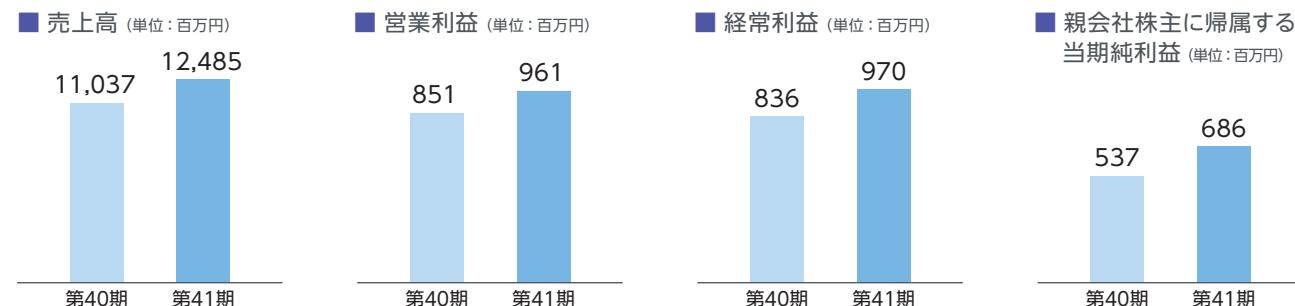
Q 当期(平成29年3月期)の業績についてお聞かせください。

当期の連結業績は、売上高(12,485百万円、前期比13.1%増)及び営業利益(961百万円、同13.0%増)ともに2桁の増収増益となりました。特に売上高は過去最高となり、業種別売上高実績では全業種で前期を上回りました。【図1】

また、四半期ベースの売上高がコンスタントに30億円を超える規模となりました。これは、積極的な人材の採用と育成及びパートナー企業との連携強化による動員力の増強と、アカウント営業の強化が上手く噛み合ってきた成果であると考えております。

図1 平成29年3月期業種別売上高

銀行業界	15億48百万円(前期比 11.0%増加)	↑
証券業界	8億31百万円(前期比 22.1%増加)	↑
保険業界	54億71百万円(前期比 2.3%増加)	↑
クレジット業界	17億26百万円(前期比 31.4%増加)	↑
公共	10億57百万円(前期比 11.2%増加)	↑
流通業界	4億90百万円(前期比 31.5%増加)	↑
その他	13億62百万円(前期比 39.7%増加)	↑



Q 中長期経営計画の進捗状況をお聞かせください。

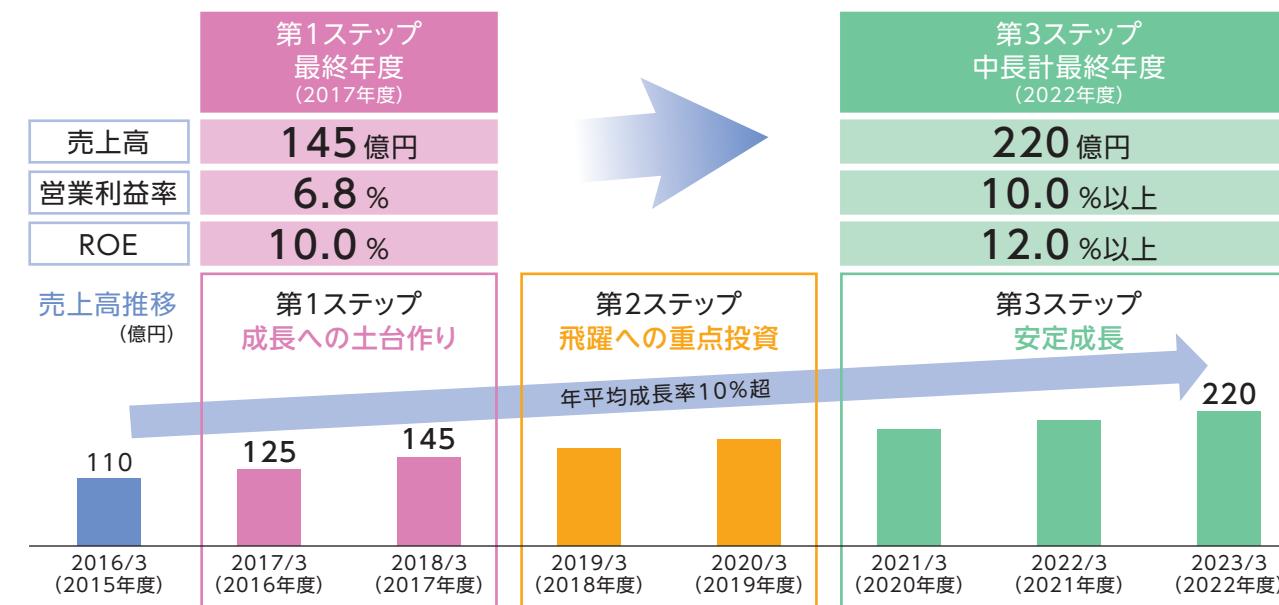
当期は当社グループが策定した中長期経営計画『C⁴ 2022』の初年度であり、その第1ステップとして「成長への土台作り」に取り組んだ1年でした。

主要な課題とその成果といたしましては、

- ①第2・第3の柱となる顧客作りについては、重点顧客11社の売上高が12.3%増加
- ②非金融分野比率の向上については、前期の20.8%から23.3%へ2.5pt向上

③エンドユーザー比率の向上については、前期の18.6%から22.4%へ3.8pt向上いたしました。その他にも、新規事業の創出に向けて、代表的なクラウド・サービスであるAWS(Amazon Web Services)の活用に着手、また、BtoC向けビジネスとして小学生向けの教育アプリ(「トライビット」シリーズ)を3本リリースいたしました。また、海外事業についても、大手SIerのお客様が海外進出する案件に参入するなど、新たな課題にチャレンジし一定の成果を残すことができました。

図2 中長期経営計画『C⁴ 2022』



Q 今期(平成30年3月期)の業績計画をお聞かせください。

『C4 2022』は、2022年度(平成35年3月期)に連結売上高220億円、営業利益率10%以上、ROE12%以上を目標としており、それまでの7年間を3つのステップに分けて展開してまいります。今期は第1ステップの最終年度となります。【図2】これまで、主要課題である非金融分野及びエンドユーザーとの取引拡大や新規事業・海外事業の創出に対する課題に対して、一定の方向性を見出すことができました。よって、当計画の実現をより確実なものとするため、来期(平成31年3月期)から始まる第2ステップの取り組みである「飛躍への重点投資」を今期から前倒しで行ってまいります。

また、IoT関連やブロックチェーンの技術研究にも取り組みます。加えて、今期からオフシア推進室を設置し、ASEANにおけるオフシアのラボ型開発拠点の開拓にも注力してまいります。

このような状況を踏まえ、今期の連結業績の計画は、次の通りであります。

平成30年3月期 連結業績予想	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
	14,500百万円 (前期比16.1%増)	980百万円 (前期比1.9%増)	984百万円 (前期比1.5%増)	678百万円 (前期比1.2%減)

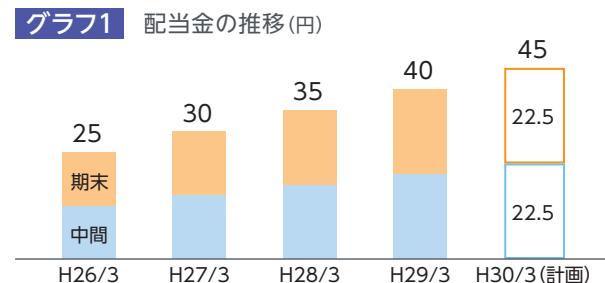
注)平成30年3月期連結業績予想は、平成29年5月12日開示時点のものです。業績予想は、当社が開示時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

Q 株主の皆様への還元策についてお聞かせください。

株主の皆様へのご支援にお応えし続けるためにも、配当につきましては、安定かつ適正な利益還元を継続してまいります。また、その適正な水準の目安としては、連結配当性向30%と設定しております。

平成30年3月期の年間配当金につきましては、1株につき45円(連結配当性向32.3%)とし、4期連続の5円増配を計画しております。【グラフ1】

株主の皆様におかれましては、今後とも何卒、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



好評「トライビット」シリーズ 第2・第3弾をリリース

昨年の9月にリリースした小学生向け教育アプリ『トライビット』の配信が好評な中、『トライビット ロジック』及び『トライビット ラン』をリリースしました。

『トライビット ロジック』は、プログラム開発のエラーを無くすために不可欠な「論理演算」を、パズル感覚で学べる脳トレゲームです。

また、『トライビット ラン』は、キャラクターが3D迷路を走り回り、障害物を避けながらゴールを目指すもので、遊びながら「変数」と「条件分岐」が身につきます。

当社は、教育アプリの配信を通じて、IT人材の育成に貢献していきたくと考えております。



ダウンロード総数が約17万件的「トライビット」シリーズ(平成29年5月17日現在)

「清掃サンタ」が横浜に“キレイ”をプレゼント!

当社は創業の地である横浜への貢献をテーマに、CSR活動に取り組んでおります。昨年12月に開催された「横浜サンタプロジェクト～サンタが街にやってきた!」は、サンタクロースに扮して、横浜に笑顔を届ける社会貢献プロジェクトです。

当プロジェクトでは、当社社員が「清掃サンタ」となって、みなとみらい地区を清掃するボランティア活動に参加いたしました。今後も社員の自発的な活動を支援するとともに、会社としても継続的に地域社会へ貢献してまいります。



個人投資家説明会を開催

本年2月、野村證券・横浜支店にて開催した説明会には、多くの個人投資家の方々にご参加いただきました。社長の中島より、事業内容や中長期経営計画などの説明をさせていただき、ご参加の皆様は熱心に耳を傾けておられました。

今後も、当社に対する理解促進を目指し、積極的に個人投資家の方々とのコミュニケーションを図ってまいります。



連結財務諸表

連結貸借対照表（抜粋）

（単位：百万円）

	前期末 H28.3.31現在	当期末 H29.3.31現在	比較増減
① 資産合計	8,312	8,806	493
流動資産	6,141	6,681	539
固定資産	2,171	2,125	△46
② 負債合計	2,162	2,152	△10
流動負債	1,706	1,785	80
固定負債	456	367	△90
③ 純資産合計	6,150	6,654	503
株主資本合計	6,160	6,656	496
その他の包括利益累計額合計	△9	△2	7

連結損益計算書（抜粋）

（単位：百万円）

	前期 H27.4.1からH28.3.31まで	当期 H28.4.1からH29.3.31まで	比較増減
売上高	11,037	12,485	1,448
売上原価	8,986	10,130	1,144
売上総利益	2,051	2,355	304
販売費及び一般管理費	1,201	1,394	193
営業利益	851	961	111
経常利益	836	970	134
税金等調整前当期純利益	836	985	149
法人税等合計	300	299	△1
当期純利益	537	686	150
親会社株主に帰属する当期純利益	537	686	150

連結キャッシュ・フロー計算書（抜粋）

（単位：百万円）

	前期 H27.4.1からH28.3.31まで	当期 H28.4.1からH29.3.31まで	比較増減
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	435	166	△269
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△249	309	557
④ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△163	△190	△27
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	23	284	261
現金及び現金同等物の期首残高	3,288	3,310	23
現金及び現金同等物の期末残高	3,310	3,594	284

① 資産

資産合計は8,806百万円と、前連結会計年度末（8,312百万円）と比較し493百万円増加しました。これは主に、有形・無形固定資産が減価償却などにより23百万円、繰延税金資産が26百万円、それぞれ減少するなど固定資産合計が46百万円減少した一方、一括契約案件の検取時期が3月に集中し、売掛金が544百万円増加するなど流動資産合計が539百万円増加したことによるものです。

② 負債

負債合計は2,152百万円となり、前連結会計年度末（2,162百万円）と比較し10百万円減少しました。これは主に、パートナー企業との連携強化により買掛金が43百万円、増益に伴い未払法人税等が18百万円、それぞれ増加するなど流動負債合計が80百万円増加した一方、固定負債のその他として表示している確定拠出年金制度への移換金が114百万円減少するなど固定負債合計が90百万円減少したことによるものです。

③ 純資産

純資産合計は6,654百万円となり、前連結会計年度末（6,150百万円）と比較し503百万円増加しました。これは主に、当期純利益の計上などにより利益剰余金が496百万円増加したことによるものです。

④ キャッシュ・フロー

〈営業活動によるキャッシュ・フロー〉
営業活動によるキャッシュ・フローは、166百万円（前連結会計年度435百万円）となりました。これは、税金等調整前当期純利益985百万円などによる資金増加から、一括契約案件の検取時期が3月に集中したことによる売上債権の増加の影響額△544百万円、法人税等の支払額△263百万円などによる資金減少があった結果であります。

〈投資活動によるキャッシュ・フロー〉
投資活動によるキャッシュ・フローは、309百万円（前連結会計年度△249百万円）となりました。これは、定期預金の払い戻しによる収入3,400百万円、定期預金の預け入れによる支出△3,100百万円などによる資金増加があった結果であります。

〈財務活動によるキャッシュ・フロー〉
財務活動によるキャッシュ・フローは、△190百万円（前連結会計年度△163百万円）となりました。これは、配当金の支払額△190百万円などによる資金減少があった結果であります。

株式の状況

株式の状況（平成29年3月31日現在）

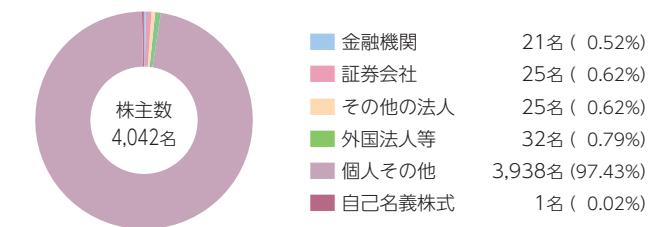
● 大株主

株主名	持株数	出資比率
ハイマックス社員持株会	364,723 株	7.4 %
前田眞也	356,858	7.3
株式会社前田計画研究所	312,496	6.4
山本昌平	277,080	5.6
株式会社野村総合研究所	237,600	4.8
株式会社三菱東京UFJ銀行	219,600	4.5
日本生命保険相互会社	176,200	3.6
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	150,000	3.0
富国生命保険相互会社	140,400	2.8
株式会社みずほ銀行	140,000	2.8

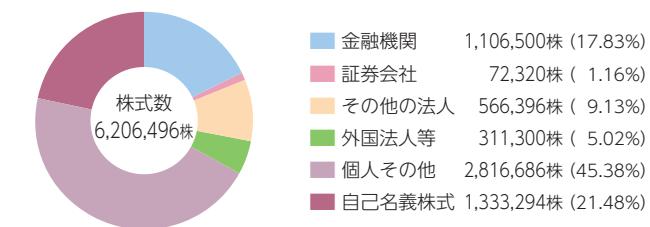
（注）出資比率は自己株式（1,333,294株）を控除して計算しております。

発行可能株式総数	18,000,000株
発行済株式の総数	6,206,496株
株主数	4,042名

● 所有者別株主数構成比



● 所有者別株式数構成比



会社概要/役員

会社概要（平成29年3月31日現在）

商号	株式会社ハイマックス HIMACS, Ltd.
本社所在地	〒231-0005 横浜市中区本町二丁目22番地 TEL 045-201-6655（代表）
設立	昭和51年5月21日
資本金	6億8,904万円
従業員数	669名
事業内容	コンピュータ・ソフトウェアのシステム化計画の企画から、設計・開発、稼働後のメンテナンスまでのシステム・ライフサイクルの各領域にわたり高付加価値ソリューションを提供する事業を行っております。

事業所 みなとみらい事業所

役員（平成29年6月16日現在）

● 取締役及び監査役

取締役会長	山本 昌平
代表取締役社長	中島 義朗
取締役	鍋嶋 勝利
取締役	豊田 隆行
取締役※1	青木 邊由紀
取締役※1	堀越 政美
取締役※1	角宏幸
常勤監査役	嵯峨野 文彦
監査役（非常勤）※2	中 沢 秀夫
監査役（非常勤）	青 奥 津 勝
監査役（非常勤）※2	山 本 章 治

※1 堀越 政美、角宏幸、嵯峨野 文彦は社外取締役です。
※2 青木 勝彦、山本 章治は社外監査役です。

● 執行役員

副社長執行役員	鍋嶋 義朗
副社長執行役員	豊田 勝利
常務執行役員	青木 稔
執行役員	岡田 隆行
執行役員	岡田 由紀
執行役員	大河原 通之
執行役員	石川 純一
執行役員	生田 勝美
執行役員	川島 正久